

講義科目 : 演習 担当 : 堀尾 博樹	単位数 : 4 学習形態 : 必修科目 * 第2学年で履修
-------------------------	-------------------------------------

講義の内容・方法および到達目標

テーマ：社会問題と会計・租税

本講義では、身近な社会問題をテーマとして取り上げ、卒業論文をまとめることを目標にします。テーマについては、会計や租税に関することを基本としますが、各個人が最も興味関心のある社会問題を取り上げて、論文作成を行うこととします。

授業計画

第1回	ゼミ内委員決定・年間計画	第16回	卒業論文指導
第2回	社会と会社の関係	第17回	決算書と富の分配 (1)
第3回	決算書の基礎	第18回	決算書と富の分配 (2)
第4回	会社の種類と会計の規則	第19回	納税と租税回避
第5回	経営分析と財務諸表	第20回	自治体の収入と支出 (1)
第6回	収益性の分析	第21回	自治体の収入と支出 (2)
第7回	財務安定性の分析	第22回	国の財政構造と借金 (1)
第8回	損益計算の用語の理解	第23回	国の財政構造と借金 (2)
第9回	貸借対照表の用語の理解	第24回	NPOの意義と役割 (1)
第10回	決算書から社会を見る	第25回	NPOの意義と役割 (2)
第11回	法人事業統計から利益をみる	第26回	ジェンダーと社会 (1)
第12回	内部留保の分析 (1)	第27回	ジェンダーと社会 (2)
第13回	内部留保の分析 (2)	第28回	卒業論文指導
第14回	内部留保の分析 (3)	第29回	卒業論文指導
第15回	卒業論文中間報告	第30回	全体のまとめ

- 基礎的な文章能力、社会問題への興味関心を深めるため、テキストを指定して構成員全員で通読を行います。その際に各個人の意見交換、ディスカッションを行います。
- 卒業論文の作成に取り組み、完成させます。
- 適宜、授業において、各人の論文の内容とテーマを報告します。
- 卒業論文は、4,000字以上とします。

教材・テキスト・参考文献等

- テキストとして使用する文献は、受講者のレベルに合わせて決定します。今のところ、前期では、野中郁江編著『市民が学ぶ決算書：企業と社会がわかる』を使う予定です。後期は、受講生と相談の上決定します。また必要に応じてレジュメを配布します。

成績評価方法

演習であるため、以下の2点を中心に総合的に評価します。

- 報告の回数や報告の内容
- 卒業論文の提出とその評価

実務経験

一般企業勤務を経て、平成18年から名古屋税理士会に所属する税理士です。企業の会計や税務を見る一方で、名古屋市などの外部監査（収入や支出のあり方、仕事の進め方に問題がないかなどを外部者の視点からチェックする業務）などを行ってきました。現在、ある自治体の監査委員、名古屋市NPOアドバイザーとしてNPO団体に対するアドバイス業務、名古屋市男女平等参画推進センターの運営協議会委員など自治体に関連する業務をやっています。

このように、会計や租税、ジェンダーなどの社会問題に関わる業務を行っています。演習ではこれらの経験をもとに、これから社会に出て行く学生の皆さんに、これらの問題をどう考えていったらいいのか、議論をしていきたいと思っています。

その他

- 会計学や租税、社会問題に興味・関心があることが望ましいです。
- 演習であるためゼミ活動に積極的に参加できる者が望ましいです。